

## 令和4年度みきっ子未来応援協議会 家庭・地域・学校教育部会議事録

### 1 期 日

令和5年2月20日（月） 19:00～20:30

### 2 場 所

教育センター 4階中研修室

### 3 出席者

#### (1) 委 員

計倉哲也部会長、中川義秀副部会長、百瀬和夫委員、稲上貴之委員  
奥野敬子委員、小紫昭子委員、金鹿功委員、田中良季委員、浅和直子委員、  
田中啓規委員、神吉知子委員、大田亜由美委員、土出麻美委員  
(欠席：小林誠和委員)

#### (2) 事務局

田中学校教育課課長、橋本教育センター所長、穂積青少年センター所長、  
平田子どもいじめ防止センター長、伊藤学校教育課主査、  
藤原生涯学習課係長、河賀学校再編室主査、林学校教育課主査

### 4 部会長・副部会長紹介

計倉哲也部会長、中川義秀副部会長

### 5 委員自己紹介

### 6 協議事項

家庭・地域・学校が一体となった人づくりに関すること

#### (1) 事例及び現状

- ・三木市の児童生徒のインターネット利用について
- ・青少年の健全育成に係る取組状況について
- ・「学校・家庭・地域の連携協力事業」について

#### (2) 意見交換

司 会： 事務局の説明についてご質問やご意見をお願いしたい。

委 員： オンラインでの授業の活用は進んだけどまだ十分ではないと感

じる。そもそも、教員用のタブレットの数が揃っておらず、オンラインでの授業が見づらかったりする。シャボテンについても児童生徒の実態に即して使えるようになるといい。

事務局： 改善に努めます。

委員： ネットサミット等の情報は保護者はどこで見ることができるのか。良いことをしている取組なので見たい。

委員： すぐーるはとても便利である。市の取組をあのツールを使って周知すると便利だし、広がりやすい。ネット依存に対して三木市はICTを進めている点で、啓発は必ず進めるべき。

事務局： 配信方法を考えます。

委員： オンラインゲームにも色々種別がある。分類するとよい。ネットとつながるのはこれからの子どもたちは当然。調査の中身を工夫すると原因等が見つかりやすいかもしれない。

委員： 子どもは我慢したり制限したりできないもの。教室で伝えるべきことだが、保護者は責任を持って制限すべき。長くなりすぎることで自体がおかしい。子どもが外で遊べる取組をすすめるのがよい。

委員： 親が使いすぎている。学校で専門的な人の話を聞くのが効果的だった。

委員： 宣伝しても人が集まらない面がある。何かよい方法はないか。

委員： AIドリル、デジタル教科書、親のチェック機能がほしい。青少年の交通手段はバスや電車であり、安全に対する注意喚起を交通関連の会社等を通して啓発するのはどうか。

事務局： データの取り方等も検討します。

委員： デジタル教科書の取組の進行状況はどうなのか。子どもが登下校する時のランドセルが重くて大変。

事務局： デジタル教科書は県や国が進める事業であるので状況を見守る。

委員： 大宮の祭りで大人にお酒をすすめられた子どもがいると聞いている。

事務局： 役員会で問題提起する。屋台の会合にも出席して伝える。

委員： 地域と子どものマッチングを増やすべき。子どもや保護者のニーズに応じてすればよい。子ども食堂と学習支援はセット。

司会： 公民館でしている学習指導の取組は広がりそうかどうか。

事務局： 指導者の確保が難しい。しかしながら、地域の大人が参加することで、子どもたちのロールモデルになるので良い取組である。

委員： 公民館が校区外だと気軽に行けない。また校区にも子ども食堂

があればいいと思う。

委員： 垣根隊が高齢化してきている。人材も少なくなっている。

委員： 老人会も平均 80 歳。地域から学校や保護者に絡んでいくのは難しい。学校からの発信がほしい。

委員： 高校生に活躍の場を与えるのはどうか。ネット依存も経験済み。声かけていただけたら。

委員： 外国籍の子どものことも忘れないでほしい。

委員： 人間はアナログで育つ。手間暇をかけないといけない。今日の議題でいうと、家庭地域学校の「一体」は三木市の規模ならできると感じる。GIGA スクール構想は全ての子どもにその子にあった教育をすべきという大きな目的がある。子どもたち一人一人みんな課題が違うので、一人を大切にされた教育を行うべき。社会全体でそれを後押しすべき。

また、ネット等は活用の仕方の問題でゲーム依存等は他の依存の症状と同じ共通部分がある。相談できる環境を整えるべきである。

## 7 閉会あいさつ（副会長）